

令和6年5月吉日

中国地区各県小学校長会
会 員 様

第71回 中国地区小学校長会教育研究大会山口大会
令和6年度山口県小学校長会秋季教育研究大会山口大会
大会会長 大田 一 夫
(山口県小学校長会会長)

第71回中国地区小学校長会教育研究大会山口大会
令和6年度 山口県小学校長会秋季教育研究大会山口大会
～ご 案 内～

薫風の候 会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、標記の大会を下記のとおり開催することといたしました。

新たな時代の要請に応える教育の推進のため、全国連合小学校長会の大会主題を踏まえ、副主題を「高い志をもって 他者と協働し 新たな価値を生み出す子どもを育てる開かれた学校経営の展開」とし、これからの時代に求められる小学校教育の在り方を究明することにより、本大会の目的を達成したいと思っております。多くの会員の皆様のご参加をお願いします。

記

- 1 主催 中国地区小学校長会 山口県小学校長会
- 2 後援 山口県 山口市 山口県教育委員会 山口市教育委員会
(予定を含む) (一財)山口県教育会 (公社)日本教育会
(公財)日本教育公務員弘済会山口支部 全国連合小学校長会
- 3 期日 令和6年11月8日(金)
- 4 会場 <全体会> KDDI 維新ホール(山口市産業交流拠点施設)
〒754-0041 山口県山口市小郡令和1丁目1号
Tel 083-902-6727 Fax 083-902-6728
<分科会> KDDI 維新ホール
YIC 情報ビジネス専門学校、YIC 調理製菓専門学校
- 5 大会主題
自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
～高い志をもって 他者と協働し
新たな価値を生み出す子どもを育てる開かれた学校経営の展開～
- 6 記念講演 演題 「教育現場に元気を与えるトーク術 ～スポーツ現場で使われるペップトークとは～」
講師 日本ペップトーク普及協会 代表理事 岩崎 由純 様
- 7 参加費 6,000円(弁当代を含む)

8 日程

| | | |
|------------|-------------|--------------------|
| 11月 7日 (木) | 14:30~20:00 | 理事会・研修会、懇親会 |
| 11月 8日 (金) | 9:00~ 9:50 | 受付 |
| | 9:50~10:30 | 開会式 |
| | 10:40~11:00 | 全体会 (趣旨説明、次期開催県挨拶) |
| | 11:00~12:20 | 記念講演 |
| | 12:20~13:30 | 昼食・休憩・移動 (分科会打合せ会) |
| | 13:30~16:30 | 分科会 |

※ 中国理事会・研修会、懇親会 11月7日(木)14:30~ 山口グランドホテル

※ 分科会打ち合わせ会 11月8日(金)12:40~ 分科会打ち合わせ会各会場

9 分科会会場・各県参加者

☆印→分科会提案県

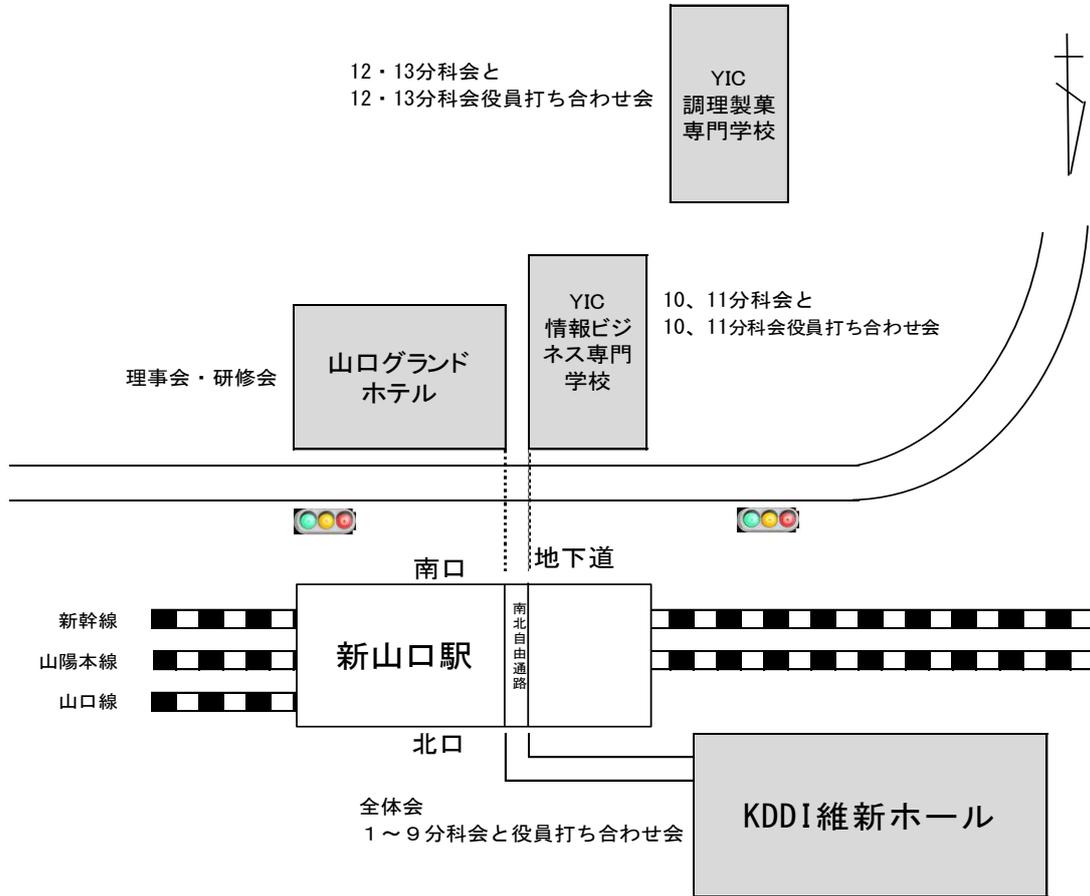
| 施設 | 研究領域 | 会場 | 分科会 | 岡山県 | 広島県 | 島根県 | 鳥取県 | 山口県 | 合計 | |
|-------------|----------|---------|-----------|------|-----|-----|-----|-----|------|----|
| 1 | I 学校経営 | ① | 経営・ビジョン | 13 | 15 | 21 | 5 | ☆20 | 94 | |
| | | ② | 組織・運営 | | | | | ☆20 | | |
| | | ③ | 評価・改善 | 8 | 11 | ☆10 | ☆4 | 21 | 54 | |
| | II 教育課程 | ④ | 知性・創造性 | ☆10 | 11 | 9 | 2 | ☆22 | 54 | |
| | | ⑤ | 豊かな人間性 | 9 | 11 | 8 | 2 | ☆12 | 54 | |
| | | ⑥ | 健やかな体 | | | | | ☆12 | | |
| | III 指導育成 | ⑦ | 研究・研修 | ☆13 | 11 | ☆9 | 3 | 18 | 54 | |
| | | ⑧ | リーダー育成 | 12 | ☆16 | 19 | 5 | ☆36 | 88 | |
| | 2 | IV 危機管理 | ⑨ | 学校安全 | 7 | ☆12 | 4 | 2 | ☆19 | 44 |
| | | | ⑩ | 危機対応 | 12 | 16 | 6 | ☆8 | ☆28 | 70 |
| 3 | V 教育課題 | ⑪ | 社会形成能力 | 12 | ☆16 | 6 | 3 | ☆32 | 69 | |
| | | ⑫ | 自立と共生 | ☆14 | 15 | 5 | 4 | ☆31 | 69 | |
| | | ⑬ | 社会との連携・協働 | | | | | | | |
| 合計 | | | | 110 | 134 | 97 | 38 | 271 | 650 | |
| 各県小学校数(R5年) | | | | 365 | 446 | 189 | 120 | 274 | 1394 | |

10 分科会会場

| | | | | |
|-------|-------|------------|--------------|------|
| 〈施設1〉 | ①・②会場 | KDDI 維新ホール | メインホール | ステージ |
| | ③会場 | KDDI 維新ホール | 会議室201A | |
| | ④会場 | KDDI 維新ホール | 会議室201B | |
| | ⑤・⑥会場 | KDDI 維新ホール | 会議室201C | |
| | ⑦会場 | KDDI 維新ホール | 会議室204A・204B | |
| | ⑧会場 | KDDI 維新ホール | 会議室205B・205C | |
| | ⑨会場 | KDDI 維新ホール | メインスタジオ | |

- 〈施設2〉 ⑩会場 YIC 情報ビジネス専門学校 2階講堂1
 ⑪会場 YIC 情報ビジネス専門学校 2階講堂2
 〈施設3〉 ⑫・⑬会場 YIC 調理製菓専門学校 3階普通教室

1.1 会場のご案内



- KDDI 維新ホール** JR新山口駅北口から直結
 全体会
 1～9分科会場
 1～9分科会役員打合せ会場
- YIC 情報ビジネス専門学校** JR新山口駅南口から徒歩1分
 10、11分科会場 KDDI 維新ホールから徒歩10分
 10、11分科会場役員打合せ会場
- YIC 調理製菓専門学校** JR新山口駅南口から徒歩3分
 12・13分科会場 KDDI 維新ホールから徒歩13分
 12・13分科会役員打合せ会場
- 山口グランドホテル** JR新山口駅南口から徒歩3分
 理事会・研修会場

1 2 大会主題・副主題及び趣旨

大会主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

大会副主題

高い志をもって 他者と協働し 新たな価値を生み出す子どもを育てる開かれた学校経営の展開

【趣 旨】

21世紀は、少子高齢化、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展をはじめ、人工知能（AI）の飛躍的な進化による絶え間のない技術革新等により、社会構造や雇用環境などが急速に変化している時代である。さらに、未曾有の災害等の発生により、価値観の転換が迫られることとなり、今まで以上に子どもたちが、予測困難な社会に対応し、主体的に未来を切り拓き、生きていく力を育成することが求められている。このような状況の下、全国連合小学校長会では、新学習指導要領の全面実施に合わせ、令和2年度から研究主題として「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を掲げ、その実現を目指した研究を着実に進めている。「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る」ためには、一人一人の子どもが高い志をもち、多様な他者と尊重し合い、互いに協働しながら、持続可能な社会の主体的な創り手となる必要がある。その中で、社会の変化に主体的に関わり、これまでの伝統や文化を更に発展させながら、質の高い豊かさを伴った個人と社会の成長に資する新たな価値を生み出していくことが期待される。

また、これからの学校教育に求められることは、これまでの「不易」の教育を継承しながら、引き続き「生きる力」を育て、課題を自分のこととして捉え、他者と協働して解決しようとする態度を育むことである。また、「GIGAスクール構想」により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、多様な学習の機会と場を活用しながら、豊かな未来を拓く新しい価値を生み出す資質能力を育てることが大切である。

こうした中、各学校においては、地域連携教育の推進により家庭や地域社会と一層連携・協働し、地域とともにある学校づくりを進めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進しつつ、真に社会に開かれた教育課程を実施することが必要である。そのため、校長は、高い教育理念と見識を備え、先見的視野に立ち、学習指導要領の理念を基に、求められる資質能力を踏まえた教育目標や諸計画を実現しなければならない。また、学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを適切に実施できるようリーダーシップを発揮し、「働き方改革」や「教職員の人材育成」を図りながら、家庭や地域社会、関係諸機関等との連携及び協働と学校間の連携、さらには小中一貫教育などを一層進め、よりよい組織体制を構築し、開かれた学校経営を展開することが重要である。

以上のことから、副主題として「高い志をもって 他者と協働し 新たな価値を生み出す子どもを育てる開かれた学校経営の展開」を設定し、5つの研究領域に13分科会を設け、校長の果たすべき役割と指導性を究明し、各学校の状況に応じた工夫改善を図ることで「チームとしての学校」づくりを目指していきたい。

【分 科 会】

- | | | | |
|----------------|-----------|-------------|------------|
| (1) 経営ビジョン | (2) 組織・運営 | (3) 評価・改善 | (4) 知性・創造性 |
| (5) 豊かな人間性 | (6) 健やかな体 | (7) 研究・研修 | (8) リーダー育成 |
| (9) 学校安全 | (10) 危機対応 | (11) 社会形成能力 | (12) 自立と共生 |
| (13) 社会との連携・協働 | | | |

1 3 分科会研究領域・研究課題・趣旨

【研究領域 I 学校経営】

<第1分科会 経営ビジョン>

【研究課題】 先見的で創意あふれる学校経営ビジョンの策定と周知

【趣 旨】

グローバル化・情報化の進展や人工知能（A I）の進化等、社会環境が急速に変化し予測困難な時代となっている。このような時代の中、変化に主体的に関わり、自分の人生をたくましく切り拓いていく資質能力をもつ子どもの育成に向けて、学校教育が果たすべき役割は大きい。

小学校教育に求められているのは、子ども一人一人を、質的な豊かさを伴った個人として、また、社会の成長につながる成熟社会の担い手として育てていくことである。さらに、高い志をもつこと、様々な事象と関わり多様な他者と尊重し合いながら協働すること、新たな価値を創造し新たな問題の発見・解決につなげることができるようにすることである。そのため、学校は、このような未来を切り拓くための資質能力を身に付けさせるよう、学校の教育目標の設定、教育課程の編成、指導体制の整備、そしてそれらの実施と評価を行うことが重要である。

校長はよりよい学校経営に向けて、各々の教育活動を貫く理念として、先見的で創意あふれる学校経営ビジョンを示す必要がある。それは校長が策定し、子どもの教育に関わる全ての関係者に示すものであるが、同時に家庭や地域社会の要請に応え得るものでなくてはならない。また、ここから展開されることになる教育活動は、家庭や地域社会、関係諸機関等の教育関係者に共有され、連携・協働につながる内容をもつものでなくてはならない。このような学校経営ビジョンの策定・周知のためには、まず子どもや家庭、地域社会の実態を踏まえること、そして教育改革の方向性や今後の教育施策の動向を踏まえるなど将来を見通すこと、未来を切り拓くために必要な資質能力を明確にすること、さらに具体的な指導内容や指導体制を整備し、それらを効果的に情報発信することが必要である。

本分科会では、先見的で創意と活力に満ちた学校経営ビジョンを策定・周知するための具体的な方策と成果を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

<第2分科会 組織・運営>

【研究課題】 学校経営ビジョンの具現化を図る活力ある組織づくりと運営

【趣 旨】

現代社会は未知の疾病や激甚化する自然災害への対応等、国境を越えた協力体制なくしては解決できない課題が山積している。これらの課題を解決するための取組は、SDG s として集約され世界規模でその推進が図られているが、このことは Society5.0 への移行という社会の構造的変化とあいまって、社会状況の変化をより広範囲で急激なものとしている。それに伴い、学校が抱える教育課題も今後増々複雑化・多様化していくものと考えられる。

こうした中、学校には、高い志と伝統や文化に立脚した広い視野をもって、自らの人生を切り拓き、持続可能な社会の主体的な創り手となる子どもの育成が求められている。また、個人や社会の多様性を尊重しつつ、幅広い知識・教養と柔軟な思考力に基づいて新たな価値を創造する力や、一人一人が自らの課題を乗り越えつつ、他者と協働する力の育成も求められている。このように、多面的な人間力の育成がより一層求められる現在の学校教育においては学校・家庭・地域が連携・協働し、地域とともにある学校づくりをさらに推進することが重要である。

そのために校長は、今日的な教育課題や自校の重点課題、求められる子どもの資質能力を学校経営ビジョンに盛り込み、家庭・地域と共有することに努めるとともに、そのビジョンに沿った教育活動を組織的・計画的に展開することが求められる。学校経営ビジョンの具現化を図る活力ある組織づくりにおいては、地域連携教育の推進により学校・家庭・地域が連携・協働する仕組みを生かすこと、また学校間連携や小中一貫教育の推進が重要である。加えて教職員の経営への参画意識を高めるとともに、働き方改革を踏まえて業務の明確化・適正化を図ることや、人材育成を考慮した適切な人的配置を行うことも重要な課題となっている。

本分科会では、校長の示す学校経営ビジョンの具現化を図る活力ある組織づくりと運営のための具体的方策と成果を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

<第3分科会 評価・改善>

【研究課題】 学校の教育力の向上を図る学校経営の評価・改善

【趣 旨】

予測困難で急速に変化している現代社会において、変化を前向きに受け止め、感性を働かせて社会や人生をより豊かなものにし、複雑化・多様化した現代社会の課題に対して、主体的な学びや多様な人々との協働を通じ、その課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出す資質能力を子どもたちに育むこと等が求められている。

こうした中、学校においては、今後の社会の在り方を見据えた育成すべき資質能力を「何を理解しているか、何ができるか。」「理解していること、できることをどう使うか。」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。」の三つの柱で、バランスよく確実に育成することが重要である。そして、「生きる力」や、その中で重視されてきた知・徳・体の育成の現代的な意義を改めてとらえ直し、夢と高い志をもち、未来社会を主体的に生きる力を育むために、教育活動の質を高め、教育力の向上を図る必要がある。

そのために校長は、時代の変化を見据えた学校経営ビジョンを策定し、リーダーシップを発揮しながら、協働的な教育活動が展開できるよう、学校経営の評価・改善を進めていかなければならない。その手段の一つとしての学校評価においては、経営や教育活動の組織的・継続的な改善を進め、家庭・地域・関係諸機関等と評価を共有し、連携・協働する「チームとしての学校」づくりを推進することが重要である。また、教職員評価においては、定期的評価はもとより、あらゆる機会を効果的にとらえ、教職員への適切な指導と対話を重ね、各自の意識改革と能力開発を促すとともに、個々の評価を学校の組織力の強化につなげ、協働体制のもとで学校の教育力の向上に取り組めるようにしていくことが大切である。

本分科会では、学校の教育力の向上を図るため、学校経営の評価・改善の在り方の具体的方策と成果を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

【研究領域Ⅱ 教育課程】

<第4分科会 知性・創造性>

【研究課題】 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント

【趣 旨】

人工知能（AI）の飛躍的な進化をはじめとする科学技術の高度化、グローバル化の進展、少子高齢化による生産人口の減少が進むこれからの社会においては、これまでに経験したことのない様々な問題に対応するため、従来の既成概念にとらわれない豊かな発想や新たな価値を創造できる資質能力を身に付けていくことが求められる。そのためにも、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善を進め、社会の変化に対応した「社会に開かれた教育課程」をさらに充実させていかなければならない。

現行の教育課程は、大きく変わりゆく社会の中で、子どもたちに「生きる力」を育むことを目的として、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力の育成、人間性の涵養を目指して編成されている。さらに、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、義務教育9年間を通じた教育課程等の検討を進めることにより、よりよい社会を創り出すための豊かな知性・創造性を育てていくことがますます必要となる。

そこで、校長は、学校の特色や子どもの実態を踏まえ、これからの持続可能な社会の創り手として必要な資質能力を明確にして具体的な目標を設定し、その実現に向け、「チームとしての学校」を目指した組織的な取組を展開していくとともに、社会と連携・協働していくことが重要である。そのために、教育の内容等を教科横断的な視点で組み立て、学習指導要

領の着実な実施やG I G Aスクール構想を踏まえ、新しい時代の学校教育の実現に向けてカリキュラム・マネジメントを進めていくことが求められる。

本分科会では、知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントを推進するための具体的方策と成果を明らかにし、校長として果たすべき役割と指導性を究明する。

<第5分科会 豊かな人間性>

【研究課題】 豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメント

【趣 旨】

グローバル化の進展や人工知能（A I）の飛躍的な進化、感染症予防対策等は、経済・社会に急激な変化をもたらしている。新しい時代を生き抜く私たちは、様々な文化や価値観を背景とする人々と互いに理解し合い、人間の幸福と社会の発展を調和させながら生きることが求められている。しかしながら、現在いじめや不登校、SNSでの誹謗中傷、自殺等が深刻な社会問題となっており、その背景として人間関係の希薄化、考え方の相違による分断、自己肯定感の低さ等が指摘されている。

これからの時代を生きる子どもには、自らを律しつつ、他者とのつながりを大切にしながら主体的・協働的に生きていくための豊かな人間性や倫理観を育てていかなければならない。そのために学校では、教育活動全体を通じて、道徳教育や人権教育を基盤とした心の教育を一層充実させていく必要がある。道徳教育の充実のためには、要となる道徳科の指導が一層重要となる。また、人権教育では、自他を尊重し、ともに生きることの価値を自覚できるようにすることが必要である。そのためには、共感的に理解する力、コミュニケーション能力、人間関係を調整したり解決方法を見いだしたりする力等の育成が求められる。

校長は家庭や地域、教職員が一体となって道徳教育や人権教育に取り組む体制を整え、子どもに豊かな人間性を育むためのカリキュラム・マネジメントを行っていかなければならない。

本分科会では、地域連携教育の仕組みを生かしたカリキュラム・マネジメントを通して、道徳教育や人権教育など、豊かな人間性を育む教育活動を意図的・計画的に推進するための具体的方策と成果を明らかにし、校長として果たすべき役割と指導性を究明する。

<第6分科会 健やかな体>

【研究課題】 健やかな体を育むカリキュラム・マネジメント

【趣 旨】

科学技術の高度化、情報化の進展等の社会環境の急激な変化は、子どもの生活環境にも大きな影響を及ぼし、心身両面にわたる健康上の問題を生み出している。日常的な運動量の減少は、子どもの体力・運動能力の低下を招くとともに、基本的な生活習慣の乱れにもつながり、ストレス症状の増加、SNSやゲームへの依存等、様々な心の健康問題の要因になっている。このような状況の中、健康で安全な生活を送るために必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、自らの課題の解決を目指すことができる力を子ども一人一人に育むことが求められている。

学校においては、ヘルスプロモーションの理念に基づき、生涯にわたって主体的にスポーツに親しむ習慣や資質能力を育成するとともに、健康の保持増進に必要な知識、習慣を身に付けさせることを一層重視していく必要がある。また、子どもが身に付けたことや学んだことを実生活や実社会に生かせるように、家庭や地域社会、関係諸機関等との連携を強化するとともに、指導の在り方を工夫していくことが重要である。

校長には、健やかな体を育む教育を学校の全教育活動の中で意図的・組織的に取り組むためのカリキュラム・マネジメントが求められる。そのためには、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等を関連付けて教育計画を整えるとともに、家庭や地域、保健関係・福祉関係機関等、様々な組織と連携・協働できる体制を整備しなくてはならない。

本分科会では、地域連携教育の仕組みを生かしたカリキュラム・マネジメントを通して、

子どもが生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質や能力、健康で安全な生活を営む実践力を育む教育を推進するための具体的方策と成果を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

【研究領域Ⅲ 指導・育成】

<第7分科会 研究・研修>

【研究課題】 学校の教育力向上を図る研究・研修の推進

【趣 旨】

21世紀は知識基盤社会であり、グローバル化の進展と人工知能（AI）の飛躍的な進化により、これまでにない大きな社会の変化が予想される。子どもたちには、こうした予測困難な社会の変化に主体的に関わり、自らの個性や可能性を存分に発揮しつつ、様々な事象や多様な他者と向き合い関わり続ける中で、多くの現代的な課題を解決する高い能力を育むことが求められる。このような現状を踏まえ、学校においては、「チーム学校」として家庭や地域社会と一層連携・協働し、地域とともにある学校づくりを推進しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善やカリキュラム・マネジメントを推進することが必要である。そして、このような教育活動を直接担うのは教職員であり、その使命・責務を果たしていくために、教職員の資質能力の向上を図る研究・研修が極めて重要となる。

校長は、このような認識に立ち、教職員一人一人の特性や力量を見極め、個に応じた課題とその解決への具体的な展望をもたせながら資質向上を図っていく必要がある。また、キャリアステージを意識した展望やチームとしての学校への参画意識をもつことができるよう、校長としてのリーダーシップを発揮することも必要となる。そして、その取組は、教職員間の学び合いや支え合い、協働する力、すなわち同僚性が基となるが、校長としては、組織マネジメントの視点を持ち、それらがうまく機能する研究・研修の場を意図的に設定し、組織的・計画的に推進していくことが重要である。さらには、教職員の世代交代が進む中、校長自らも資質能力の向上を図り、これまでの「不易」の教育を継承しながら培ってきた指導法等を伝え、若い世代を育てていくことも求められている。

本分科会においては、学校の教育力向上を図る研究・研修を推進するための具体的方策と成果を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

<第8分科会 リーダー育成>

【研究課題】 これからの学校を担うリーダーの育成

【趣 旨】

学校では、「社会に開かれた教育課程」を実現し、地域や社会と関わる中で新しい価値を創造するための教育実践が求められている。教員の世代交代が進む今、こうした教育を実現するには、これまで以上に教職員の高い専門性と総合的な人間力が求められる。教職員一人一人の資質能力の向上に向けて、キャリアステージに応じた体系的かつ効果的な取組を展開し、学校組織としての教育力を高めていくことが必要である。特に、組織の要となり教職員を牽引していくミドルリーダーや、それを統括し適切な指導が行える管理職候補者の存在は必要不可欠であり、このような人材の計画的な育成は喫緊の課題である。

「チーム学校」をよりよい方向へ導くための原動力となるリーダーは、若手教職員の育成を担うとともに、目的や方向性を他の教職員と共有し役割や立場を認識して、複雑化・多様化する教育課題の解決に向けてマネジメントをしていかなければならない。そのためには、組織の中心となって教育活動を展開する高い専門性、全体を見渡せる広い見識、組織を効果的に機能させる調整力、柔軟かつ迅速な対応力などが求められる。また管理職には、社会の変化を敏感に受け止め改革する力や外部と折衝する力、組織をまとめ適切に動かす力なども必要である。

校長は、長期的視野に立って教職員一人一人のよさや特性を把握し、意図的・計画的に人材育成に努めなければならない。その際、学校のマネジメント機能を強化しながら、校務分掌を通して幅広い経験をさせるとともに、リーダーとしての意識を育むことも重要である。

また、地域連携教育を推進する中で、人材育成に取り組む校長のビジョンを地域に明確に示し、地域の教育力をリーダーの育成につなげていくことも求められる。

本分科会においては、これからの学校運営を担うリーダーを育成するための具体的な方策と成果を明らかにし、校長として果たすべき役割と指導性を究明する。

【研究領域Ⅳ 危機管理】

<第9分科会 学校安全>

【研究課題】 地域ぐるみで命を守る防災教育・安全教育の推進

【趣 旨】

近年、全国各地で予測不能な自然災害が発生し、その被害も深刻なものとなっており、防災体制を抜本的に見直し、地域の防災力の強化を目指すことが喫緊の課題である。また、不審者事案や交通事故、SNSの利用を巡るトラブルやネット犯罪等、安全や命に関わる事件・事故も後を絶たず、子どもを取り巻く危機的状況は多様化し、深刻さを増してきており、地域ぐるみで安心・安全な生活環境を確保し、子どもの命を守り抜いていくことが強く求められている。

こうした現状を踏まえ、学校においては、組織的な安全管理の一層の充実を図ることや、安全で安心な学校施設を整備すること、安全に関わる知識、危険予測・危険回避能力などを子どもに身に付けさせていくことが必要である。加えて、予測できない事態が生じた際には、可能な限り自らの命を守り抜く「自助」とともに、他者に援助要請ができること、さらに、安全で安心な生活や社会を実現するために主体的に行動できる「共助・公助」の態度を育成することも強く求められている。

校長は、教職員の危機対応能力を一層高め、実効性のある安全管理のPDC Aサイクルを確立させるとともに、系統的・体系的な防災教育・安全教育を進めていかなければならない。また、安全に関する課題は、複雑で多様な要因が関係していることが多いことから、地域連携教育の推進により、家庭や地域、関係諸機関、専門家等との協働体制を構築し、それぞれが責任と役割を分担して子どもの命を守る取組を展開できるようにすることが重要である。特に近年は、甚大な被害をもたらす自然災害が頻発していることから、学校防災と地域防災が一体となった取組を推進していかなければならない。

本分科会では、子どもの安心・安全を確保し、命を守る防災教育・安全教育を推進するための具体的な方策と成果を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

<第10分科会 危機対応>

【研究課題】 学校と子どもを取り巻く危機への対応

【趣 旨】

社会や生活環境の急激な変化に伴い、子どもを取り巻く様々な問題が増加している。また、いじめ・暴力行為・不登校・学級崩壊といった学校内の問題に加え、様々な自然災害や新たな感染症、不審者等の学校外からのリスクも年々増加している。さらには、SNSによるいじめや人権に関わる問題、児童虐待や自殺等、学校が対応すべき新たな事案も多岐にわたっている。一旦このような危機が発生すれば、子どもや教職員の安全や命が脅かされてしまうことになる。また、初期対応を誤り、問題が重大化してしまうと、学校としての正常な機能が麻痺してしまうだけでなく、学校教育全体の信頼が失われることにもなりかねない。

このような現状を踏まえ、学校は、子どもの健やかな成長を保障していく場であり、安心して学ぶことができる安全な場所でなければならないという認識を高く維持することが重要である。そのため学校には、危機を予見・回避するための方策を講じるとともに、事件・事故の未然防止や適切な対応をとる等、危機管理の体制を確立し、教職員及び子どもたち一人一人の危機対応力を高めることが求められている。

校長は、常に危機意識をもって学校経営に当たり、事件・事故等の未然防止に努め、教職員の危機意識を高めるとともに、あらゆる場面を想定した危機管理マニュアルを見直し、危

機管理体制の充実・改善を行う必要がある。また、日常の学校組織・運営を遂行するために、子どもと教職員の信頼関係を構築・維持し、学校と家庭や地域社会、関係諸機関等との連携・協働を図ることも重要である。

本分科会では、様々な危機から子どもや学校を守るための家庭や地域社会、関係諸機関等と連携・協働した対応の在り方、危機の未然防止のための具体的方策と成果を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

【研究領域Ⅴ 教育課題】

<第11分科会 社会形成能力>

【研究課題】 社会形成能力を育む教育の推進

【趣 旨】

今日の社会は、デジタル化の急速な進行の中で、新しい生活様式が登場するとともに、単独世帯の増加や地域コミュニティ活動の減少などにより、地縁的なつながりが徐々に希薄化し、子どもが地域の中で集う場所や機会も減少している。このため、家庭や地域において、子どもの社会性を高めたり、コミュニケーション能力を育んだりする機会が減少し、所属意識の醸成等にも影響を及ぼしていると考えられる。

このような状況の下、学校には、これからの社会に生きる子どもに、社会を構成する一員として、主体的によりよい社会を協働して形成しようとする能力や態度などを育むことが求められる。併せて、地域とともにある学校として地域コミュニティの核となり、地域に貢献する学校づくりを進めていくことも重要である。その中で子どもは、他者と協力・協働して社会に参画する喜びに触れたり、地域で一定の役割を担ったりしながら、地域社会の一員としての自覚をもつことができるようになる。そこでは、地域連携教育により社会総がかりで子どもの学びや育ちを見守り支援しており、一層連携・協働した取組の充実が望まれる。

校長は、社会の発展に貢献する資質能力、態度を育むために、地域の人・もの・ことを積極的に活用し、体験や問題解決的な学習を取り入れた教育活動を展開する必要がある。また、地域に愛着をもち、よりよい社会の創造に貢献する力を育むために、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動を展開することが求められている。こうした教育活動を効果的に編成するカリキュラム・マネジメントを進め、社会的・職業的自立に必要な力やコミュニケーション能力を育み、よりよい社会の創造に積極的に関わろうとする人材を育成していくことが重要である。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、社会形成能力を育む教育の推進のための具体的方策と成果を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

<第12分科会 自立と共生>

【研究課題】 自立し、共に生きる力を育む教育の推進

【趣 旨】

グローバル化の進展と多様化が進む現代において、人々の交流は今までにないほど進んでいる。このため、異なる文化や価値観を有する人々が出会い、ともに協働して生活しようとする中で、互いの理解が進まず衝突する場面が生じている。また、知識基盤社会が進展し、テクノロジーなどの技術革新は目覚ましく進化した反面、人間関係の希薄化やコミュニケーション能力などの他者と関わるための基本的な能力の低下、子どもの生命・人権問題や貧困など、様々な課題が見受けられる。

このような状況を踏まえ、学校は、障害の有無にかかわらず、子どもたちがそれぞれに自己実現を図りながら自立し、相互に人格と個性を尊重し合い、支え合う教育を推進していくことが大切である。また、人々の多様な在り方を認め合える全員参加型の社会の実現に向け、合理的配慮を推進し、誰もがもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、将来の自立と社会参加に向けて基礎を培う教育を推進していかなければならない。さらには、これからの社会を形成する子どもたちが、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断し、よりよい社

会や人生を切り拓いていくことに主体的に関わろうとする態度を育む取組を進めていく必要がある。

校長には、特別支援教育や人権教育、国際理解教育、キャリア教育等を切り口にして、子どもたちの自立と共生社会の実現の基となる資質能力を育む教育活動を展開することや、諸条件の整備に向けた校内体制づくりを行うこと、地域及び関係諸機関等との連携を図ること等が求められている。

本分科会では、一人一人が自立し、多様な他者と共に生きる力を育む教育を推進するための具体的方策と成果を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

<第13分科会 社会との連携・協働>

【研究課題】 家庭・地域社会等との連携・協働と学校間連携の推進

【趣 旨】

少子高齢化、グローバル化の進展をはじめ、ICTの飛躍的な進化等により、急速に社会が変化を続け、それに伴って地域コミュニティや家庭環境も変容しており、学校運営の在り方が問われている。そのような中、各学校では家庭や地域社会の教育力を高め、「人づくりと地域づくりの好循環の創出」を目指した地域連携教育が推進されている。

この取組を効果的に推進するためには、学校・家庭・地域社会がそれぞれのよさや課題、目標を共有し、それぞれの役割を確認しながら、子どもの教育活動を中心として、連携・協働する具体的な仕組みを構築していくことが必要である。また、子どもの成長を継続して支援できるようにするため、発達段階を踏まえた一貫性のある教育を効果的に推進するとともに、地域連携を強化する中で、さらなる学校間連携を推進することも重要である。このように、地域社会全体で子どもの望ましい成長を促すためには、学校・家庭・地域社会が連携・協働することにより、社会総がかりで子どもの学びや育ちを見守り支援し、地域づくりにも貢献する教育のさらなる充実が学校に求められている。

校長は、「地域とともにある学校づくり」を推進するため、地域に開かれた教育課程を編成し、教育内容や人的・物的体制の充実、教育環境の整備等、地域ぐるみの学校支援体制の強化を図るとともに、学校・家庭・地域社会が一体となった教育を推進することで地域社会の教育力を高め、「人づくりと地域づくりの好循環の創出」に寄与することが求められる。

本分科会では、家庭・地域社会との連携・協働と、学校間の連携・協働を推進する具体的方策と成果を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

14 分科会関係者一覧

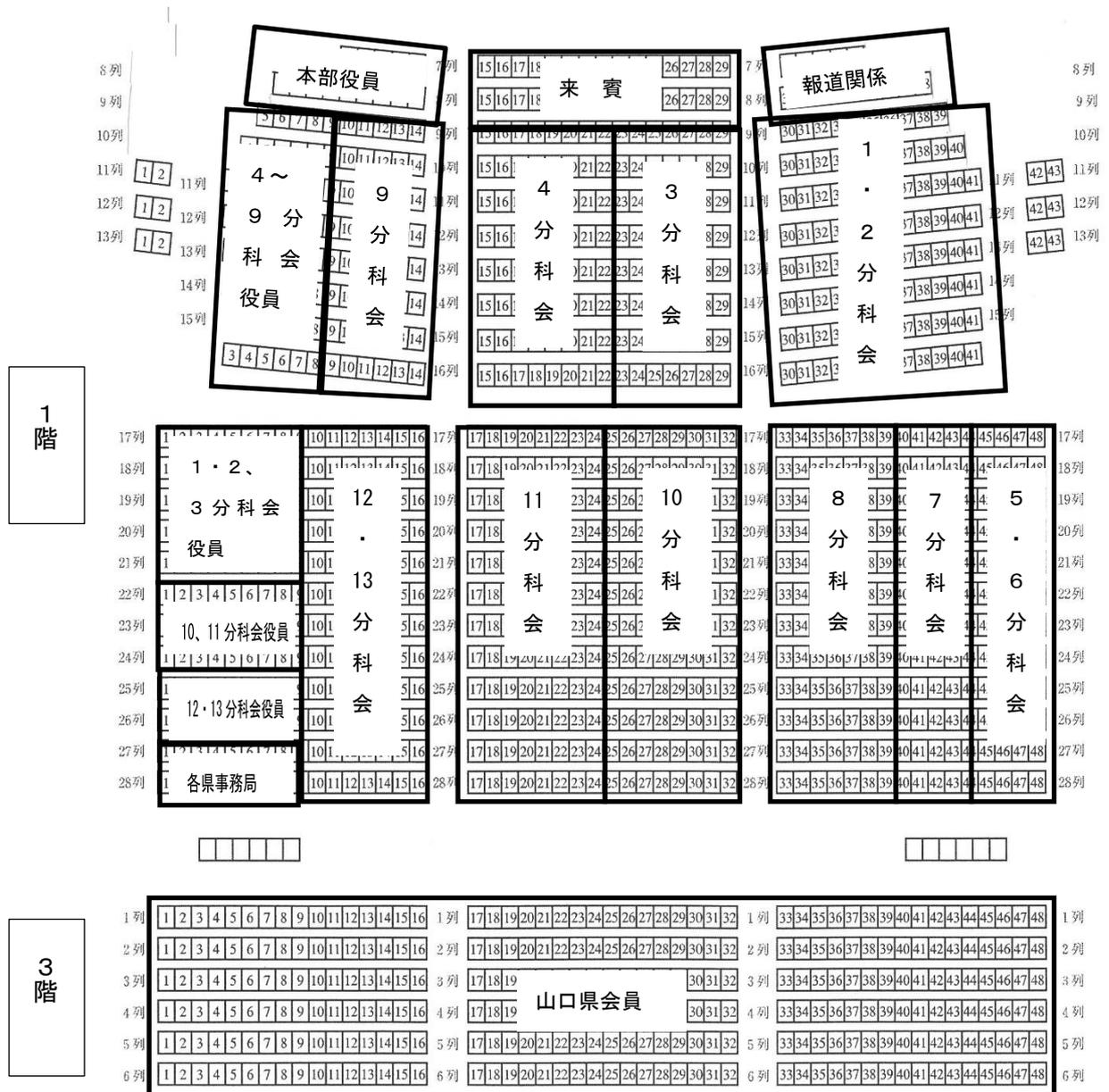
| 施設 | 会場 | 研究領域 | | 分科会番号・領域・研究課題 | |
|----|---------------------|------|-------|---------------|--|
| 1 | KDDI維新ホールメインホールステージ | I | 学校経営 | ① | 〈経営ビジョン〉 先見的で創意あふれる学校経営ビジョンの策定と周知 |
| | KDDI維新ホール会議室201A | | | ② | 〈組織・運営〉 学校経営ビジョンの具現化を図る活力ある組織づくりと運営 |
| | KDDI維新ホール会議室201B | | | ③ | 〈評価・改善〉 学校の教育力の向上を図る学校経営の評価・改善 |
| | KDDI維新ホール会議室201C | II | 教育課程 | ④ | 〈知性・創造性〉 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント |
| | KDDI維新ホール会議室204A・B | | | ⑤ | 〈豊かな人間性〉 豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメント |
| | KDDI維新ホール会議室205B・C | | | ⑥ | 〈健やかな体〉 健やかな体を育むカリキュラム・マネジメント |
| | KDDI維新ホールメインスタジオ | III | 指導・育成 | ⑦ | 〈研究・研修〉 学校の教育力向上を図る研究・研修の推進 |
| | YIC情報ビジネス専門学校2階講堂1 | | | ⑧ | 〈リーダー育成〉 これからの学校を担うリーダーの育成 |
| | YIC情報ビジネス専門学校2階講堂2 | IV | 危機管理 | ⑨ | 〈学校安全〉 地域ぐるみで命を守る防災教育・安全教育の推進 |
| | YIC調理製菓専門学校3階普通教室 | | | ⑩ | 〈危機対応〉 学校と子どもを取り巻く危機への対応 |
| | | | | ⑪ | 〈社会形成能力〉 社会形成能力を育む教育の推進 |
| | 2 | | V | 教育課程 | ⑫ |
| | | ⑬ | | | 〈社会との連携・協働〉 家庭・地域社会との連携・協働と学校間連携の推進 |
| 3 | | | | | |

| 発 表 主 題 | 提 案 者 | 司 会 者 |
|---|------------------------|------------------------|
| 先見的で創意あふれる経営ビジョンの策定と周知 | 山口・周南市立高水小 熊田 恵美 | 山口・周南市立遠石小 清水 聡美 |
| 小規模校の組織づくりと地域や教職員への動機づけの工夫 | 山口・周防大島町立浮島小 岡田 健志 | 山口・周防大島町立沖浦小 村中 晶子 |
| 学校運営協議会の学校評価への効果的な関わりを促し 学校経営の評価・改善の質の向上を目指す | 島根・大田市立五十猛小 下隅 義久 | 島根・大田市立大田小 川津 康正 |
| 学校の教育力向上を図る学校経営の評価・改善 | 鳥取・倉吉市立久米小 山本 敦 | 鳥取・倉吉市立社小 牧田 悟 |
| 新たなことにチャレンジし、たくましく生きていく子どもの育成 ～他者とのつながりや非認知能力の評価を意識しながら～ | 岡山・玉野市立第二日比小 大山 裕之 | 岡山・玉野市立築港小 谷 あゆみ |
| 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント ～Mineの特色を生かした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進～ | 山口・美祢市立厚保小 磯崎 愛子 | 山口・美祢市立秋吉小 吉田 睦美 |
| 「自律・貢献」の心を育む「小中一貫・地域連携協働カリキュラム」とそのマネジメントにおける校長の役割 | 山口・光市立塩田小 吉田 哲朗 | 山口・光市立三輪小 片山なるみ |
| 児童の体力向上に向けた取組における校長の役割 | 山口・下松市立東陽小 山縣 佳洋 | 山口・下松市立公集小 橋田 太郎 |
| 小中一貫教育の充実にに向けた研究・研修の推進 | 岡山・笠岡市立中央小 山川 達也 | 岡山・笠岡市立新山小 中山 晶年 |
| チーム雲南として共通課題の改善に向けた研修の推進 ～研修の充実に向けて、行政、異校種との連携を図るための校長の役割について～ | 島根・雲南市立掛合小 野田 孝秀 | 島根・雲南市立鍋山小 川崎 隆祥 |
| キャリアステージに合わせた人材育成 ～「T字型専門性モデル」に合わせたリーダーシップの向上をめざして～ | 広島・尾道市立山波小 宇江 裕明 | 広島・尾道市立浦崎小 小川 咲子 |
| 連携力を生かしたリーダー育成 ～同僚性を高め、教職員のやりがい感を高める校長のマネジメント～ | 山口・柳井市立柳北小 中重 利紀 | 山口・柳井市立大島小 松本 光司 |
| 自分で考え、判断し、安全に行動できる力を育てる防災教育・安全教育 | 広島・福山市立常金丸小 山田 裕之 | 広島・福山市立加茂小 占部 享 |
| 学校・家庭・地域が連携し、子どもが主体的に取り組む防災教育・安全教育の推進 | 山口・宇部市立原小 岩崎知恵子 | 山口・宇部市立東岐波小 佐野 英之 |
| ベクトルの最大化に向けて | 鳥取・琴浦町立聖郷小 田中由佳理 | 鳥取・北栄町立大栄小 小田 信之 |
| 学校と子どもを取り巻く危機への対応 ～地域や関係機関と連携した学校の危機対応～ | 山口・岩国市立由西小 関本 幸司 | 山口・岩国市立錦清流小 青山 拓 |
| 社会に貢献する資質・能力・態度を育む教育の創造 ～子どもがつながる、学校がつながる、地域とつながる取組を通して～ | 広島・大崎上島町立東野小 望月 浩和 | 広島・大崎上島町立大崎小 大政 勇司 |
| 地域の資源を活用しながら地域連携担当教員等が核となって推進するカリキュラム・マネジメントの充実 | 山口・下関市立文関小 宮内 辰夫 | 山口・下関市立小串小 中野 達史 |
| 高梁市校長会で取り組む特別支援教育の推進 ～特別支援教育コーディネーターの育成を中心に～ | 岡山・高梁市立福地小 片岡 一公 | 岡山・高梁市立川面小 難波 徹 |
| 人づくりと地域づくりの好循環を目指す連携・協働の在り方 ～山陽小野田市や各小学校の特色を生かして～ | 山口・山陽小野田市立赤崎小 高良 哲也 | 山口・山陽小野田市立須恵小 間恵 満貴 |

15 全体会場座席図

(KDDI 維新ホールメインホール)

ステージ



1 6 大会に参加される方への連絡事項

(1) 参加申込について

- ① 参加者は、6月25日(火)までに参加申込票に参加費を添えて、各県小学校長会事務局へ申し込んでください。
- ② 参加費の返金はいたしません。後日、大会報告書をお届けします。
- ③ 参加費領収書は、大会当日に受付でお渡しする大会要項に入れておきます。
- ④ 参加についての変更は、8月28日(水)までに各県小学校長会事務局へご連絡ください。

(2) 大会当日の対応について

- ① 開会式の座席は、「県別の座席」ではなく「分科会ごとの座席」(頁14参照)となります。昼食及び分科会会場への移動を円滑に行うためのものですので、ご協力をお願いします。
- ② 受付では出席確認を行いませんので、急な欠席の場合は、他の参加者または各県の市郡等の代表の方に、要項等の持ち帰りを依頼してください。

(3) 駐車場について

- ① 会員用に駐車場を確保していません。できるだけ公共交通機関や貸し切りバス等を利用してご来場ください。
- ② 貸し切りバス等の駐車場の斡旋は行いません。

(4) 宿泊申込について

宿泊に関しては、大会事務局での取り扱いは行いませんので、参会の皆様ご自身において宿泊の手配をしていただきますようお願いいたします。なお、理事会・研修会参加者の宿泊については、大会事務局で手配します。

1 7 各県小学校長会事務局へのお願い

- (1) 参加者名簿一覧は、7月16日(火)までに山口県小学校長会事務局へ送信・送付してください。

- (2) 参加費は、7月26日(金)までに下記にお振込みください。

| 振込先 | |
|-------|---|
| 金融機関名 | 萩山口信用金庫 中市支店 ハギヤマグチシンヨウキンコ ナカイチシテン |
| 口座番号 | 普通 0414333 |
| 口座名義 | 中国地区小学校長会事務局 チュウゴクチクシヨウガッコウチヨウカイジムキョク 事務局長 伊藤 豊 ジムキョクチヨウ イトウ ユタカ |

- (3) 参加者の変更は、各県小学校長会の事務局を通じて「山口県小学校長会事務局」
にお願いします。

(TEL)083-925-2919

(FAX)083-925-6776

18 中国地区理事・提案者・司会者・記録者・分科会運営委員等への連絡

- (1) 「提案原稿」「協議の柱」の提出は、7月31日(水)までに「山口県小学校長会事務局」
にお願いします。
- (2) 中国地区小学校長会第2回理事会・研修会を、大会前日の11月7日(木)14時30分から、
「山口グランドホテル2F」にて開催します。詳細は近づきましたらお知らせします。
- (3) 大会当日の11月8日(金)12時40分から、各分科会打合せ会場において、分科会打合せ
会を行います。参加者は、提案者・司会者・記録者・分科会運営委員です。詳細は後日、ご本
人宛にご案内いたします。

山口大会に関する連絡・問い合わせ先

〒753-0072 山口県山口市大手町2-18 山口県教育会館内
山口県小学校長会事務局
TEL 083-925-2919 Fax 083-925-6776
e-mail y-shocho@galaxy.ocn.ne.jp